

タネの秘密をレクチャーします!

タキイの種子をより正しく お使いいただくために...



第3回 種子消毒

この連載では、種子を正しく取り扱っていただくための基本的な知識をテーマに沿ってご紹介していきます。今回は、タキイの高品質種子が皆さまの手に届くまでの作業として「種子の精選と選別」についてご紹介しました。今回はもう一つの重要な作業「種子消毒」について解説します。

種子消毒の方法

① 浸漬処理

薬剤液などに10~30分間の比較的短時間浸漬して処理する。

ブロッコリー種子の薬剤浸漬処理



↑ 薬剤を入れた消毒層に種子を漬けて処理をする。消毒→洗浄→脱水の後、乾燥機で種子を乾燥させる。



↑ 薬液層で薬剤(ポルドー剤)と酢を攪拌する様子。



↑ 種子はメッシュの種子袋に入れられ浸漬処理される。



← 薬剤の分量、浸漬の時間など自動で調整できる。

② 乾熱殺菌

乾燥種子を70~80℃で数日間処理する。種皮表面だけでなく、胚や胚乳などの種皮内部の病原体も不活化させることができる。



← 大型の乾熱乾燥庫。種子の乾燥と乾熱殺菌の両方ができる。



↑ 種子袋をトレイに並べ処理をする(写真は小型の乾熱乾燥庫)。

③ 粉衣消毒

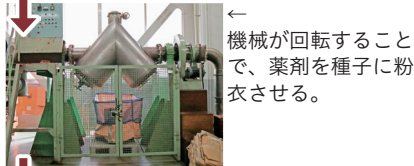
粉の薬剤を種子に粉衣させる。土壤病害に対して処理済みの薬剤を働かせる効果がある。

実エンドウ種子のコーティング作業



← 実エンドウ種子(コーティング前)

↑ コーティング機に種子と薬剤を入れる。



← 機械が回転することで、薬剤を種子に粉衣させる。



← 実エンドウ種子(コーティング後)

表示の義務

種子消毒については、農薬取締法に則り農薬の薬剤名と処理の回数、処理した場所(国内か海外か)表示する義務があります。タキイの種子では種子絵袋の裏面に記載があります(絵袋裏面Aを参照)。

種子絵袋の裏面

タキイ 福兵衛® ASP060 RF

生育旺盛な早生種で、べと病レース1~12、14~15に抵抗性をもつ。 葉柄が太く、株張りのよい多収種。 播種期幅が広く、栽培しやすい。

エポブライム種子は、発芽ぞろいを向上させるため、吸水性を高める処理をしています。

発芽適温	15~20℃	生育適温	15~20℃	発芽日数	4~5日
------	--------	------	--------	------	------

【まきどきと収穫期】

月	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
発種										
生育期										
収穫期										
栽培可能期間										

* 作型はおよその目安です。栽培地の条件に応じて参考にしてください。

栽培方法 土づくり・施肥は横行どおり行ってください。

① タネまき 葉まき覆土した後、その上を手で軽く押さえて鎮圧してから灌水します。

② その後の管理 子葉展開後は密生している所や生育遅れの弱い株を間引いて、株間を3~5cmにします。

③ 収穫 草丈が25cm程度になったら、順次収穫します。

※ ホームページも併せてご覧ください。 <https://www.takii.co.jp>

※ この種子を食べたり、動物等に与えないでください。また、お子様の手の届かない所で保管してください。

※ 直射日光・湿気を避け、涼しい所で保管してください。

※ 種子の責任は、本欄上100%の責任は負いません。また、播種後の栽培条件、天候等により、結果が異なります。万が一の結果不負の責任は、種子代金の範囲内とさせていただきます。※ 独自加工(パレット等)されたものについては、責任を負いかねます。 ※ 虫害は一切お断り致します。

有効期限	2020年4月	発芽率	85%以上
生産地	デンマーク	* この種子は農業処理をしています。	
製品LOT	123ア	チウラム、メタラキル	M
		生産地処理	各1回

タキイ種苗株式会社
京都市下京区梅小路

切り口 ↓

4 974650 628173

種子の取り扱いにご注意

安全性が確認された登録のある農薬のみが消毒に使用されています。種子として普通に扱う分には、健康を損なう恐れはありませんが、タネそのものを食用としたり、動物に与えたりはしないでください。